

# 種智院大學 同窓會報

第24号

平成10年12月25日

京都市南区壬生通八条下る東寺町545  
種智院大学 同窓会

## 平成10年度種智院大学同窓会総会報告

日時 平成10年6月10日(水) 午後2時～午後3時40分 場所 種智院大学 3F 講堂

会長挨拶 池田瑩輝 同窓会会長 (昭和28)

来賓祝辞 吉田裕信 真言宗京都学園理事長 (昭和24) (3頁掲載)

議長選出 足立有教 同窓会副会長 (昭和28)

### 議事

1. 平成9年度事業報告書(案)承認の件 資料①により説明。(事務局)
2. 平成9年度決算書(案)承認の件 資料②(2頁掲載)により説明。(事務局)
3. 種智院大学同窓会名簿編集委員会の事業報告書(案)承認の件、別紙により説明。(事務局)
4. 平成10年度事業計画書(案)承認の件 資料③により説明。(事務局)
5. 平成10年度予算書(案)承認の件 資料④(2頁掲載)により説明。(事務局)

以上の案件については、すべて拍手をもって、承認された。

ここで、児玉義隆事務局長より役員人事報告があった。「平成9年度中に、同窓会役員のなかから、各山の管長重役に就任した方がある」と発議し、種智院大学同窓会会則第7条の会則により、顧問に推薦する旨を報告した。

平成8年4月1日付、総本山西大寺第70世長老・真言律宗第七代管長に就任された谷口光明大僧正猥下(昭和24)、また平成9年12月1日付、真言宗大覚寺派管長・大本山大覚寺門跡に就任された片山宥雄大僧正猥下(昭和19)のお二人を紹介した。谷口長老には、西大寺の晋山式と昨年度の同窓会総会の日程が重なっていたために、同窓会からの御祝が遅れた非礼をお詫びし、同窓会からの花束贈呈が行われた。

また弔事として、同窓会顧問の元総本山仁和寺門跡小林隆仁猥下(平成9年4月3日遷化)、元総本山泉涌寺長老小松道圓猥下(平成9年10月21日遷化)が、それぞれお亡くなりになったことを報告した。足立座長の挨拶をもって3時50分に総会を終了。

引き続き、記念講演に移り、初めに池田会長の講師紹介の後、在大阪ロシア連邦総領事館総領事(当時)ゲオルギー・E・コマロフスキー氏の「ロシア人の見た日本文化」と題した記念講演が行われ、5時に終了、屋上で参加者の記念撮影が行われた。

会場をホテルグランヴィア京都に移し、懇親会を開催。今井浄圓氏の司会で、初めに池田会長の挨拶の後、顧問に就任された片山大覚寺門跡への花束贈呈、片山門跡の挨拶、川村泉涌寺長老の発声で乾杯し宴に移った。途中、参加者の消息を一言ずつスピーチをしていただきながら和やかに会が進み、最後に最年長の多田隆信師の挨拶と、理事長の吉田仁和寺門跡が門跡在任期間中のお礼と謝辞を述べられ、7時30分盛会のうちに終了した。出席者は下記各氏。

多田隆信	安東法秀	高畑龍憲	奥寺知光	江坂宗純	川村俊朝	木村大廣	萩岡明海
手塚利貞	松野栄三	森 見章	内藤信道	法本弘文	蓮沼雅春	田中純應	吉田裕信
今井圓明	山田達圓	神野龍幸	谷口光明	東田教範	石坪昭真	生駒研性	開田清治
足立有教	池田瑩輝	加門得勇	田井秀戒	北村議臣	福島尊光	高松龍暉	井上亮淳
沖田定信	北村太道	土屋博秀	山本純一	中田弘道	池野良考	大林教善	都筑大乘
鈴木宏教	北村祐道	鷲尾遍隆	玉山順彦	宇垣泰明	佐野剛空	西田義範	岩崎豊海
沖津祐照	中江本隆	湯通堂法姫	川原一修	奥田雅之	福本智江	米田雅一	児玉義隆
池田和彦	今井浄圓	西崎照明					

## 種智院大学同窓会 平成9年度決算書

## 収入の部

(単位:円)

平成9年度予算			平成9年度決算		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
会費	2,210,000	終身会費@20,000×110 年会費@2,000×5	会費	184,000	終身会費@20,000×9 年会費@2,000×2
懇親会費	450,000	@10,000×45名	懇親会費	370,000	@10,000×37名
受取利息配当金	203,000	定期預金(200,000)郵便貯金 普通預金(3,000)	受取利息配当金	248,196	定期預金(240,000)郵便貯金・ 普通預金(8,196)
雑収入金	200,000	広告代、総会・懇親会等お祝い、 写真代	雑収入金	2,287,050	お祝金、広告料、名簿代、寄付 金
前年度より繰越	17,554,933		前年度より繰越	17,554,933	
計	20,617,933		計	20,644,179	

## 支出の部

(単位:円)

科目	金額	備考	科目	金額	備考
人件費	100,000	アルバイト費、事務費	人件費	74,700	総会アルバイト分
総会諸費	300,000	総会諸費用(200,000)、講演料 (100,000)	総会諸費	414,250	講演料、テープ起稿、総会諸費 用、前事務局長へ送別金
懇親会費	450,000	@10,000×45名	懇親会費	370,000	懇親会費
消耗品費	5,000	事務用品、コピー代等	消耗品費	23,703	消耗品購入代
印刷製本費	600,000	会報2回分、ハガキ等	印刷製本費	702,978	会報等業者委託
名簿作成費	3,000,000	名簿作成費用	名簿作成費	2,719,908	1,300冊分、 (一冊単価 2,092円)
通信費	400,000	会報発送費、案内状送付切手代	通信費	286,645	総会案内、出欠ハガキ、書籍小 包等
会議費	100,000	幹事会等	会議費	158,205	幹事会等
慶弔費	100,000	支部総会お祝い金、慶弔電報処 理費	慶弔費	97,000	慶弔61,000円、弔事36,000円
旅費交通費	100,000		旅費交通費	137,670	編集委員旅費、懇親会場タクシ ー移動代
事業費	100,000	卒業生記念品代	事業費	0	
雑費	10,000		雑費	54,945	
次年度へ繰越	15,352,933		次年度へ繰越	15,604,175	名簿・広告代振込手数料、手土 産代等
計	20,617,933		計	20,644,179	

同窓会の平成9年度の会計が正確に行われていることを認める。

監査人 氏名 川崎龍性  
氏名 加門得男

## 種智院大学同窓会 平成10年度予算書

## 収入の部

(単位:円)

科目	金額	備考
会費	4,410,000	終身会費@20,000×220 年会費@2,000×5
懇親会費	450,000	@10,000×45名
受取利息配当金	203,000	定期預金(200,000)郵便貯金・ 普通預金(3,000)
雑収入金	200,000	名簿代、広告代、総会・懇親会 等お祝い、写真代
前年度より繰越	15,604,175	
計	20,867,175	

## 支出の部

(単位:円)

科目	金額	備考
人件費	100,000	アルバイト費
総会諸費	300,000	総会諸費用(200,000)、講演料 (100,000)
懇親会費	450,000	@10,000×45名
消耗品費	30,000	事務用品、コピー代等
印刷製本費	750,000	会報2回分、ハガキ等
通信費	300,000	会報発送費、案内状送付切手代
会議費	160,000	幹事会等
慶弔費	100,000	支部総会お祝い金、慶弔電報処 理費
旅費交通費	100,000	
雑費	10,000	
次年度へ繰越	18,567,175	
計	20,867,175	



## 同窓会総会来賓祝辞

真言宗京都学園理事長 吉田裕信

平成10年度の種智院大学の同窓会総会を開催致しますに、全国各地からお忙しい中を、また遠路ご出席いただきまして、本当に心強く、また久しぶりに同窓生の健やかなお姿に接し、大変うれしく思う次第であります。ただ今ご紹介いただきましたように、真言宗京都学園の理事長を務めております。また仁和寺の門跡としては任期も残り少なくなりましたが、勤めております吉田裕信でございます。このところ、少し体調を崩しておりますけれども、お許しいただきたく思います。

常日頃、京都学園の護持発展のために、同窓会の皆さまには並々ならぬ御支援、御協力をいただき、この席をお借りしまして、心から厚くお礼申し上げます。

京都学園が、とくに種智院大学が発展するか、あるいはつぶれるか、どうかかわからないようなお話がございましたが、絶対につぶすことはできません。とくに種智院大学は平成11年度をもって、現在の臨時定員増がなくなり、元の40名に戻ります。また大学の設置基準という条件を満たさなければ、あるいはということが考えられます。

しかしながら、それはお大師さまの建学の精神に反することで、いかようなことがあっても、護持発展させるために、新しいキャンパスを創るということで、理事会・評議会の合議のもとに、着々と校舎建築を進めている現状であります。

私からの願いは、一人でも多くの寺院子弟、また檀家の在家のお子さま方をこの新しいキャンパス開校と同時に、お送りいただく、そういう人材を皆様方をお願いして、京都に送っていただくということ。地方におられます皆様方は、なかなか学園のことがお分かりにくいとは思いますが、母校の種智院大学は、お大師さまの済世利人、密厳浄土の建設を目的とした宗門大学で、一般教養大学とは、違った特色を持っている訳でありますから、そういう道を志す。とくに来年度からは仏教福祉学科新設も計画しております。そこで、一人でも多くの学生を、これからの新世紀の日本を担う子供たちを送りつけていただく役を同窓会の皆さまにお願いしたい。そうしますと、定員増のまま、護持運営が可能になるかと思えます。

その点をお含みいただきまして、どうか、あたたかい御支援と御協力を賜りまして、お大師さまに報恩謝徳、学園の護持発展、また新しい世紀を担う人材育成のためにも、当事者として精一杯がんばりますので、よろしく皆様方の御協力をお願い

い申し上げます。また今日の同窓会総会が実りある充実した、また和やかな会になりますことを御祈念して、祝辞とさせていただきます。

## 同窓会総会記念講演

### 「ロシア人の見た日本文化」

ゲオルギー・E・コマロフスキー



G・E・コマロフスキー

皆さんこんにちは。ご紹介にあずかりました在大阪ロシア連邦総領事のコマロフスキーです。私はたびたび日本のかたの前で話をしますけれども、今日はちょっと怖いです。なぜかといいますと、ここに集まっておられる多くの方はお寺の関係者でして、私の専門

は日本の宗教史ですけれども、このような皆さんの前で宗教について話をするのはなかなか難しいと思います。

まず最初に、非常に簡単に口日関係の現状を申し上げます。

ここ最近5、6年の間はロシアと日本との関係はかなりスムーズに進んでおります。とくに去年から政治、軍事交流、文化交流の分野は急ピッチに進んでいます。去年11月シベリアのクラスノヤルスクで橋本総理とエリツィン大統領が会って、2000年までに日ロ平和条約を締結するための努力の約束をしました。今非常に積極的に平和条約の作成のプロセスが進められています。

これはとてもいいことですが、まだ口日関係の改善のプロセスは両国内での支持がそれほどではありません。これは両国民の間の相互知識がかなり浅くて、相互理解が不十分だからです。この欠点はお互いの文化を知ることを通じて改善することができると思います。私はこの点を自分の経験で立証する事ができます。

私が初めて日本に来たのは38年以上前です。大学で日本語、日本の歴史、日本の地理、日本の経済、日本の文学も勉強してきました。しかし、あまり深く勉強できませんでした。なぜなら、当時、日本とソビエト連邦との間には外交関係は樹立されておりませんでした。私は5年間大学に行って日本語を勉強したのに、実際に日本人と会ったことがなかった。だから、いろいろの書物で勉強しました。日本語の教材として教科書以外に、主に一定の新聞（『赤旗』）と一定の雑誌（『全通』）を利用しました。これでわれわれの日本についてのイメージはどのようなものだったかわかりにな

ると思います。

しかし、日本に来てから日本の文化に魅せられた。最初は浮世絵とかその他のものでした。そして、偶然に名古屋市の荒子観音寺に行って、そこで初めて円空上人の仏像と出会いました。私はこれを見て本当に魅せられたのです。そして、ぜひそれを勉強して本を書きたいと思った。

しかし、私は円空上人の仏像を美術的な観点から勉強するだけでは理解も不十分で、あまり大した本も書けないということに気づきました。やはりこの仏像を正しく理解するためには、まず最初に円空上人の心をつかまなくてははいけない。そのためには彼が信じていたことを勉強しなければならない。そこから、日本の仏教、仏教ばかりでなくて日本の宗教全体に対する私の関心が生まれしました。

1968年に円空上人の仏像についての本を出しましたが、それに留まることなく勉強して、宗教に対する日本人の考え方についていろいろな本を書きました。それを通じて私は初めて、日本の皆さんの文化、日本の皆さんの心をつかむことができました。

これについて、今ロシアでは日本の宗教、とくに日本の仏教について一般大衆はどれほど知っているのでしょうか。

さきほどの円空仏の本と同じ年に日本の宗教について『日本の古き新しき神々』という本を出版しました。これは、日本の仏教、神道について書き、また19世紀の半ば以降、とくに第二次世界大戦後に現れたたくさんの宗教的なグループ、いわゆる新興宗教、新宗教について書いております。

ロシアでは10月社会主義革命が起こってから半世紀ぐらいたちましたが、この間で日本宗教についての初めての本、それも学問的ではなく一般向きのものでした。この事実が30年前のロシアにおける日本の宗教の研究の状態を非常にはっきりと物語っております。

弘法大師についてロシアではどれくらい知られているか、簡単に申します。初めて弘法大師について書かれた小さな論文が戦前30年代に出ています。私の『日本の古き新しき神々』の中にはわずかしか入っていません。80年代の半ば頃、新しい世代の研究家が現れ、その中にミッシリヤコフという人がいます。この人は、古代神道と仏教との関わりについて本を書き、日本の文化についていくつかのエッセイも書きました。15年ほど前の彼の論文集の中には弘法大師についての論文も出ておりました。そして、3、4年ほど前にロシア科学アカデミーから『日本における仏教』という

本が出た。そのなかで初めて日本の真言、とくに弘法大師様の教えについて学問的な論文も出ております。

しかし、それにもかかわらず、一般大衆は弘法大師を含めて日本の仏教についてあまりよく知りません。これは非常に残念なことだと思います。

私は、ロシアで、とくに一般の人々にお釈迦様の教えを積極的に広めてもらいたいです。それは、率直に申しあげますと、ロシア人は仏教と知り合って仏教徒になるとは私は思いません。しかし、その上で、ロシア人の考え方に対してポジティブな影響を与えるために、お釈迦様の教えをどうしても広めてもらいたいです。これをよく理解するために、私はこれから日本の文化と歴史の発展のモデルとロシアの文化と歴史の発展のモデルについて若干申しあげます。

歴史をさかのぼってみると、日本の6世紀の状態とロシアの10世紀の状態はある意味で非常に似ていました。6世紀には日本にはもう民俗宗教ができております。後に神道と名付けられたものです。ロシアの10世紀にも、日本に非常に似ている民俗宗教があった。この両方に太陽の神があった。日本ではあとで天照大神になった天照御霊です。ロシアではヤリロウという神様でした。そして風の神様、稲光の神様、その他の神様がたくさんあった。両国には自然崇拜という同じような信仰があったわけです。そして6世紀の半ば頃に日本には仏教が渡来しました。一方、10世紀の終わりにロシアには新しい宗教、キリスト教がビザンチンから来ました。

ここで、新しい宗教への日本人の受け取り方とロシア人の受け取り方を比べてみましょう。仏教が日本に渡来したときには、最初は民俗宗教と一定の摩擦があったが、あまり長く続きませんでした。その後、民俗宗教と新しく日本に渡来した仏教は平和共存になりました。

ロシアではどうか。ロシアの王様のキエフ公ウラジミール一世は、当時のロシアの首都であったキエフ（現：ウクライナの首都）の市民をドニエプル川のほとりに集めて無理やりに下川に押し込んで洗礼させました。それと同時に、民俗宗教の神様の像を集めて、焼き払い、川に捨てました。外国から思想を受けるために、何世紀も前から存在した思想や宗教を否定しました。

この出来事は、そのあとの千年の間のロシアの文化の発展のモデルを決め、ロシア人の王様やロシア人の政治家は何かの改革をしようと思ったときには、まず最初に古いものを否定して、完全に破壊して、その上に新しい文化を建設しました。

例えば、16世紀のイワン雷帝の時代がそうでした。あるいは、18世紀の初め頃のピーター大帝の時代、また、今世紀の初め頃の10月社会主義革命のときもそうでした。ロシアの千年の歴史を振り返ってみると、新しいものを入れようと思うときには、古いものを破壊してその代わりに新しいものを入れた。だから、いつでも激しい革命、激しい戦いがあった。

日本はまったく違います。平安時代には「和魂漢才」という言葉があった。日本の伝統的な文化にプラスして中国の知識を付け加え、それを発展させました。明治維新の直後では「和魂洋才」です。同じく日本の文化にプラスしてヨーロッパの知識。第二次世界大戦後では、同じような言い方をすれば、「和魂米才」といっても間違いはない。日本の文化にアメリカの知識が付け加えられた。しかし、最初のエレメントはいつでも同じ「和魂」、日本の心です。日本の文化に新しいものを付け加えるときには、伝統的なものを破壊しないで、伝統的なものに新しいものをもらって豊かにさせる。

なぜこのような違いが生まれたのか。私の考えでは、まず最初にお釈迦様の教えの特徴です。お釈迦様の教えはインドからさまざまな国に広められました。しかし、その国に行くときに、その国に存在した宗教を否定せず、その国の信仰のいろいろな要素を吸収して自分で変えて、それからその国の国民に受け入れられるものになった。なぜかといいますと、お釈迦様の教えの中でいちばん重要なことは、中道、妥協の考え方です。しかし、キリスト教、とくにロシア正教会はまったく非妥協的です。これが極端に偏った国民性をロシア人に与えています。この傾向を訂正するのはなかなか難しいが、どうしても必要です。

今、ロシアの経済発展には多くの障害があるので、これを克服するためにみんな手を組んで努力する必要があります。さまざまな政党やグループが、解決すべき問題にはお互いに協力しなければならぬのに非妥協的です。だから、ロシア人には「中の道」の思想が必要です。そのために、お釈迦様の教えをロシアで広めてもらいたい。そのために、大衆向きの仏教についてわかりやすく面白い本をロシアでどんどん出版させなければなりません。

しかし、残念なことにロシアにはそうした本があまりない。理由は二つあります。一つの理由は、仏教を勉強する有能な学者はいるが、今ロシアの学者は非常にみじめな状態にあり、いくら書いても自分の作品を出版できる可能性はない。私の同僚は論文集を準備して、全部論文を集めたけれど

も、資金がないから出版することができませんでした。

理由のもう一つは、もちろんロシアにおいてお釈迦様の教えを広めるという場面では、日本の研究者、日本の仏教の学者がかなり大きな役割を果たすことができますけれども、残念なことに、今までは、例えば真言とか天台とか日蓮などの既成宗派はこの活動にあまり積極的に参加しておりません。

2、3年前にロシアで「私の釈尊論」という本が出ております。これは創価学会の名誉会長の池田大作さんが出した本です。私はここで池田さんを批判するつもりはありませんが、このような本をロシア語に翻訳することはかなりいいことだと思いますが、彼には彼なりの考え方があって、皆様とはちょっと違うと思います。同じようなテーマの本を皆様方のほうから出したら良いと思いますが、残念ながらありません。

しかし、もしこのような本が出版されるなら注目されると思います。とくにインテリゲンチアの中では仏教に対する関心は非常に高いのです。けれども、場合によっては非常に否定的な結果を生み出しております。そのいちばんの例が、オウム真理教のロシアの中での活動です。皆様方はご存じかどうかは知りませんが、オウム真理教の国内の信者は、あの事件の前は1万人もいないでしょう。しかし、ロシアでは一度は3万人もの信者がいました。今でもオウム真理教はロシアでは禁止されたにもかかわらず、まだまだオウム真理教の信者がいます。

なぜでしょうか。前にも申しましたように、インテリゲンチアの人、とくに若い人の中では仏教に対する関心が高い。そこにオウム真理教が入ってきて、ロシアの人はオウム真理教はインチキの宗教であるということをもまったくわからずに信者になったのです。一つの真空地帯があったら、いつでも誰かが埋めますけれども、既成宗派は来ないでオウム真理教のようなインチキのグループが入ったのです。だから、どうしてもここに集まっておられる皆さんは、これについて真面目に考えてもらいたい。

私はこの場所で話をする案内状をもらったときに、奈良や京都についてぜひ話してもらいたいと書いてありましたので、若干申しあげます。

まず最初に奈良についてです。初めて日本に来たのは昭和34年で、天理大学に集中講義に行ったかたわら奈良県のあちらこちらを歩きました。そして私は奈良について本を書きました。題名は「日本文明揺籃の地」です。これはロシア人に奈

良を通じて日本の文化を紹介しようと思ったのですが、それ以外にもう一つの重要な目的がありました。

私はこの著書の中では、とくに文化財保護・文化財の保存について、そして歴史に対する日本の皆さんの考え方を書きました。これはぜひロシアの人に見習ってもらいたかった。私はこう固く信じております。過去なしでは現代もないし未来も将来も考えられません。そして、自分の国の歴史について知らない方は、自分をロシア人とか日本人とかドイツ人とか名づける権利はない。これはとくにロシアについては必要です。ロシアは多民族の国です。さまざまな民族が住んでおり、言葉を使っております。文化も違うし、宗教も違うし、考え方も違うし、顔色も違う。このようなたくさん民族を何が統一させますか。まず最初に共通の歴史、共通の過去です。

論語に「温故知新」という言葉があります。私はこの言葉が大好きです。伝統的なことに対して尊敬の気持ちがないと、古いことや古い文化を知らないとし新しいことはわからない。このような考え方をロシア人の読者にこの本を通じてどうしても伝えたいと思ったのです。

そして、京都についても申しあげたい。私は京都が非常に好きです。暇さえあれば、京都のお寺とか、京都の周辺の山によく行きます。しかし、率直にいいますと、京都全体としては私はあまり好きではありません。今の京都の街はみんなばらばらで建築的美術的価値がまったくない建物ばかりです。とくに最近数十年の間に京都の美に対してかなり悪いことがあった。京都タワーや京都ホテル、ごく最近には、京都駅のビルディングができた。他の都市ならばこのようなビルディングはなかなか立派なものだと思いますけれども、京都にはまったくふさわしくない。

あまりに保守主義的すぎるかもしれないけれども、次の世代のために伝統的な文化を保存しなければなりません。何か新しいものを建設するときには、まず最初によく考えなければならないと思います。

終わりに臨んでもう一つのことについてちょっと触れたいと思います。私はときどき若い人と会います。そこで一つのことを見つけました。例えば、皆様のような年齢の方々の前で話をするときにはだいたい共通の言葉、共通の考え方を見つけますが、若い人の前でしゃべると必ずしもそうではない。とくに残念に思うのは、歴史的なこと、伝統的なことについてあまり関心がないことです。

大人になると若者を批判する傾向がだんだん強

くなる。これはいつの時代もそうでした。今の若者たちも大人になって変わるかもしれない。しかし、最近はもっと大きな変化が起こったのではないかと心配しています。例えば、ロシア文化に対する考え方。私が38年前に日本に来たときに、私はロシア人であるとか、私はソビエト外交官であるとか自分を紹介するなら、相手の反応は当たり前でした。ロシア人ならトルストイ、ドストエフスキー、チャーホフとか、ロシアの文学がまず最初に相手の頭の中に浮かびます。当時の日本人の世代はみんなロシアの19世紀あるいは20世紀初めの文学に育てられました。例えば90巻にわたる『トルストイ全集』を読んだ人がいました。しかし今の若い人と話をすると、彼らはトルストイの名前は知っていても、何も読んだことはない。いまや若者たちはロシア文学どころか、日本の古典的な文学もあまり読まない。これは非常に残念なことです。

この私の考え方は厳しすぎるかもしれない。しかし、結局、若者たちの考え方、あるいは若者たちのビエイピアに対する責任はわれわれにあります。だから、これについて皆さんも考えてもらいたいです。

そして、いちばん最後に、ちょっと難しい話ですけれども聞いてもらいたいことがあります。日本に割合に長く住む外国人は、仏教のことについて何を知っていますかという話が出ると、いつでもこう答えています。仏教のお寺がある、住職の活動は主に葬式でありますと答えている。もちろん日本の伝統にしたがって葬式はお寺で行われております。これは当たり前のことです。しかし、私の考えでは、仏教の知識の高い人は、まず最初に一般の人にお釈迦様の教えの精神を伝えなければならぬ。ということは、それが住職の方のいちばん重要な任務ではないかと思えます。

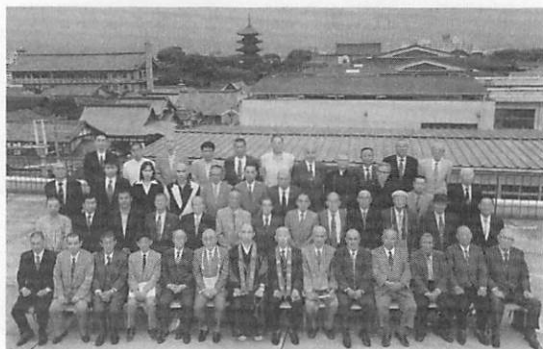
ここに来る前に、私は種智院大学のカリキュラム、道のような科目を教えているものを注意深く読みました。やはり非常にさまざまな面白いことがあります。お釈迦様の教えとか、インドの仏教、中国の仏教、チベットの仏教、密教のさまざまな場面を教えております。密教の文化、密教の美術はとても立派なものです。やはりこのような知識

#### ・・・ 著者略歴・・・

1993年、現ベラルーシ共和国の首都ミンスク市生まれ。モスクワ国立国際関係大学卒業、同大学院修士課程修了。専門は日本の歴史、同文化と宗教史。'92年歴史学博士。'59年ソ連外務省に入り、以後在日ソ連大使館の書記官等、通算二十数年勤務、その間80年代後半に天理大学の講師。 在大阪ロシア連邦総領事館総領事を退任。  
主な著書 「円空聖人仏像五千体」「神々の道—日本の歴史における神道」「奈良—日本文明の揺籃 歴史・宗教・文化」など。

をできるだけ広い階層に伝えてもらいたい。こういう感じをもっています。

私の乱暴な日本語の話を我慢して聞いてくださいましたことに対して心から感謝いたします。ご静聴ありがとうございました。

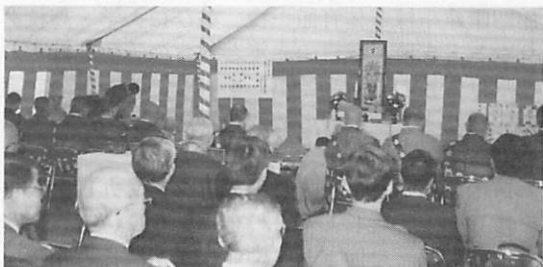


同窓会総会

## ● 向島新キャンパス関係 ●

### 向島キャンパス地鎮祭

長らく着工が待たれていた種智院大学向島新キャンパスでは、起工に先立ち5月9日(土)午前10時から、京都市伏見区向島西定請70番地の工事現場において地鎮祭(土公供)が行なわれた。前夜までの雨も上がって当日は素晴らしい快晴となり、今井圓明学長導師のもと、真言宗京都学園の教職員、設計管理に当たる(株)M I K I 設計管理事務所、内外エンジニアリング(株)、施工に当たる(株)奥村組・北和共同体の関係者多数が出席し、工事期間中の無事と期間内の完成を祈願した。



次第は、開式の辞につづいて導師登壇の後、奠供(四智梵語)。導師の啓白文。山崎泰廣宗教部長の経頭により理趣経読誦。この間、土公供の儀を鎮師児玉義隆助教授が修し、また列席者全員が順次焼香。ひきつづき後讃(仏讃)、般若心経、諸真言、御宝号を唱えて法要を終了した。つづいて鉄入れの儀をおこない、閉式の辞をもって地鎮祭が無魔成満した。

なお当日の主な出席者は以下のとおり。

### <真言宗京都学園関係者>

田中純應 今井圓明 平野暎哉 廣安俊道  
衣川俊雄 辻関俊哉 市橋真明

### <種智院大学関係者>

(学 長) 今井圓明 (学 部 長) 北村太道  
(宗教部長) 山崎泰廣 (学生部長) 宮崎隆太郎  
(図書館長) 中村幸子 (入試部長) 吉田 元  
(教 員) 所 久雄 児玉義隆 北尾隆心  
池田和彦 左右田昌幸 木村 敦  
平尾 桂 佐伯俊源  
(事務長) 下山 博  
(事務職員) 都筑大乗 宇垣泰明 福山真寿美  
田中吉郎 西堀 潔

### <真言宗京都学園法人事務局関係者>

(局長) 衣川俊雄  
尾崎芳幸 森 千晴 小林いづみ

### <洛南高等学校関係者>

(校 長) 田中純應 (事務長) 佐野正雄

### 向島キャンパス工事安全祈願祭

無魔完成祈り吉田理事長導師で盛大に執行  
既報のごとく母校種智院大学では、向島に新キャンパスを建設しているが、平成10年6月13日、同キャンパスの建設工事祈願祭を各山山主、重役を始め関係者130余名出席のもと盛大に執行した。祈願祭当日は生憎の雨となったが、午前10時より京都市伏見区向島西定請70番地の工事現場に設けられたテント内に於いて吉田理事長導師、今井学長副導師のもと教職員および学生・卒業生の職衆により西院流により理趣経立法要が営まれ、吉田理事長が別掲啓白文を表白した。続いて鎮師が地鎮の儀を行なった後、片山大覚寺門跡、川村泉涌寺長老、田中信貴山管長、小池須磨寺管長、池田同窓会会長、設計・施工の工事関係者が鉄入れの儀を行い、心経、諸真言をもって法要を終了。次に吉田理事長は心の拠り所を失った昨今の世相を嘆き、心の教育の大切さを説き、更に「京都学園は小さい規模ではあるが、中身は他に類を見ない特色ある大学である。時代に即応しうる大学を目指し、新キャンパス建設となった。学舎の建築が





無魔成満すべくご協力ご指導をお願いしたい」と感謝の言葉をお話された。続いて設計の(株)MIKI建築設計事務所代表取締役井関幹雄氏、施工の(株)奥村組副社長鳥養進氏が挨拶し、11時に終了。引き続き隣接したテント内で祝宴が催された。なお当日出席の同窓会関係者と出仕の導師職衆は下記のとおり。



#### <同窓会関係者>

片山宥雄 (大本山大覚寺門跡・昭和19)  
 川村俊朝 (総本山泉涌寺長老・昭和22)  
 吉田裕信 (総本山仁和寺門跡・真言宗京都学園理事長・昭和24)  
 佐伯龍幸 (総本山西大寺執行長・昭和24)  
 今井圓明 (種智院大学学長・元大本山中山寺長老・昭和24)  
 池田瑩輝 (同窓会会長・元大本山中山寺長老・昭和28)  
 池田光輝 (大本山中山寺総務部長・昭和51)  
 導師 吉田裕信理事長  
 副導師 今井圓明学長  
 出仕者 (経頭) 山崎泰廣、(鎮師) 潮 弘憲、  
 児玉義隆、(職衆) 野口圭也、北尾隆心、  
 今井淨圓、佐伯俊源、高島圓隆、  
 島田大観、神田征宏  
 奉行 添野智諫  
 承仕 都筑大乘、宇垣泰明、中村禎成、井上敬司、  
 近藤潤一郎、久富正登

#### 学校法人真言宗京都学園向島キャンパス 建設工事 安全祈願 啓白文

謹しみ敬って真言教主大日如来 両部界会諸尊聖衆 教令輪者不動明王 外金剛部護法天等尽空法界一切三宝、殊には高祖弘法大師をはじめ学園関係歴代先師尊霊、別いては堅牢地神 当所鎮守部類眷属地水火風空等の諸天に白して言く。

夫れ真言宗京都学園の縁起を尋ねれば、高祖弘法大師延暦二十三年に入唐し、密教の奥義を極め、併せて唐朝の文化を学び、殊には教育制度を視察研究し、唐都に於ては教育甚だ隆盛にして、庶民教育制度も整備され、才子城に満ち芸士国に溢れ文化燦然と栄えるを見聞す。これに比べ我国の都

にあつては、貴族子弟の教育のため一の大学あるのみで、庶民の教育制度なきを悲む。依つて、天長五年十二月十五日、私学の濫觴「綜藝種智院」を創建される。降つて、中興雲照律師は明治十四年、東寺境内に総髪を建立され、その後教育制度の変遷に伴い、京都真言宗高等中学林より東寺中学校・東寺高等学校、更に洛南高等学校と改称され、昭和六十年 同附属中学校の設置が認可される。一方真言宗京都大学は、京都専門学校より新制大学の認可を得て種智院大学となり、真言宗京都勸学財団は、学校法人真言宗京都学園として組織変更され今日に及ぶ。その間、時に隆替ありと雖も先師先徳は、綜藝種智院式の建学の精神を遵守し、学園の興隆に日夜尽力される。然ればこれに依て、経営各御本山及び本学同窓会も支援を惜しまず、昭和三十八年・昭和四十七年・昭和六十年及び平成三年に高校・中学及び大学の校舎の新增築に努めらる。

然るところ、平成三年大学に許可された臨時定員増の法律は、時限立法にして明年を限りとす。

この対策のため、学園理事会評議員会は、議を重ね文部省、京都府及び京都市等に指導を仰ぎ、練議の結果、大学キャンパスの一部を京都市伏見区向島に移することに決定す。用地の取得、農地の転用、開発行為、及び建築確認等の許認可総てを終え、今地鎮の嘉会に値遇す。正に欣快無上と言うべし。

工事は設計管理を、株式会社 MIKI 建築設計事務所並びに内外エンジニアリング株式会社に委ね、施工は、奥村組北和建設共同企業体に任す。建立を企望するは、参万百七拾七平方米余の敷地に、教育・研究及び実習、並びに管理部門を有する本館四階建一棟と体育館一棟、並びに大学・高校グラウンドを擁し教育の充実と体育の強化を計る。

形は密教の奥義金胎不二を表し、四天王の守護をいただき、曼荼羅の教育道場をかたちどる三摩耶形とす。

機縁漸く熟して、去る平成十年五月九日土公供を修して工を起し、本日の吉辰を撰び、茲に来賓各位の御臨席を仰ぎ、学園並に工事関係者相集い、齋筵を設けて地鎮の典儀を厳修し、工事の無魔成満を熟禱す。仰ぎ願わくは、宗祖大師をはじめ十方三世の諸仏天神地祇 我等末徒の微志を哀愍納受し、更に擁護を垂れ給わらんことを。

乃至法界 平等利益

平成十年六月十三日

学校法人真言宗京都学園 理事長  
 総本山 仁和寺門跡

吉田裕信 敬白



## 向島新キャンパスの内容紹介

ここで新しい向島キャンパスの内容をご紹介します。行きましょう。場所は近鉄京都線向島駅の西側です。橋上駅になっている向島駅の改札口を出て右手、「府立商業高校専用」通路から階段を降り、承水溝3号水路を渡って高校の通学路をまっすぐ西へ、府立商業高校の東側、約3万平方メートル（約9,000坪）の南北に長い敷地です。徒歩約10分。

敷地北側には4階建の大学本館5,997平方メートルと2階建の講堂兼体育館1,805平方メートルが建ち、そのまわりに駐車場、緑地、また南側は250メートル陸上トラックを含むグラウンドになります。大学の正門は府立商業高校と道路をはさんで向かい合った位置になります。では1階から順に説明して行きましょう。教室（講義室）のある本館は円形と方形を組合せた建物で、金胎不二を表わし、四角に四天王を形どった三摩耶形をイメージした建物になっています。

### ○本館

1階：中央は密教の金剛界、胎藏界をかたどった、上まで吹き抜けのマンダラ広場で、この建物の最大の特徴です。その四隅には中に階段がある柱が建ちます。南側に事務室、学長室、学部長室、医務室などの事務機能が集中され、広場をはさんだ北側は図書館で図書閲覧室（52席）と2階まで続く書庫があります。

2階：南側に福祉の介護実習室、和室、入浴実習室、調理・裁縫実習室が設けられ、東側と北側に大講義室（200席）、演習室が配置されます。

3階：南側に合同研究室、会議室、情報実習室、東側に大講義室（250席）、北側に講義室（120席）、演習室、西側は個人研究室となります。

4階：南側と西側には個人研究室が並び、中央部に講義室（152席）と大会議室ができます。正面入り口からはスロープ、エレベーターのほか、各階には身障者用トイレを設置して身障者に配慮した構造となっています。

### ○講堂兼体育館

校舎に隣接した講堂兼体

育館棟の方を見てみましょう。

1階：南側に92席の食堂、厨房、購買部ができ、食堂がないという今までの悩みが解消されます。その北側は、自治会室、クラブ室が14室（各10.4平方メートル）ならびます。

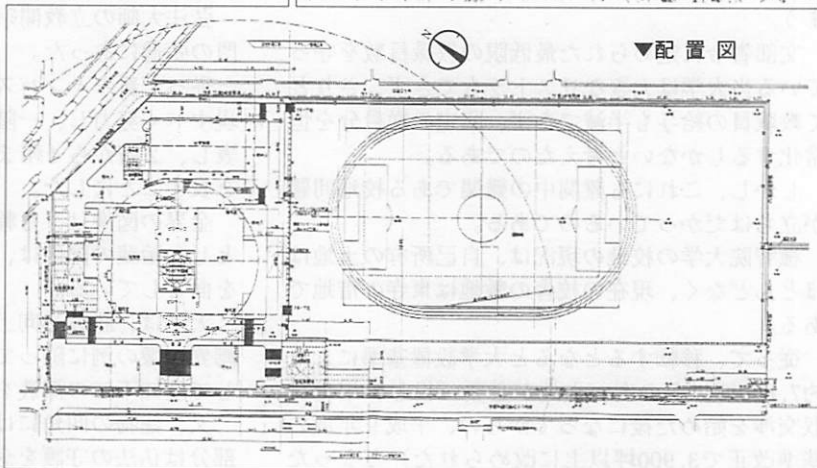
2階：講堂兼体育館。正面北側のステージの奥に収納式の仏壇がおかれ、入学式、卒業式などの大学行事が行なわれます。ふだんは体育館として使用し、バスケットボールのコートが一面とれます。また男子、女子のトイレ、更衣室、シャワールーム、器具収納室もできます。

以上が概要ですが、講義室が少ないために講義の規模にあった部屋が用意できない、研究室がせまいために先生に十分な指導がうけられない、食堂、購買部がないために校外に買物にでなければならぬ、文化、体育会サークル用の十分な練習スペースがない、など手狭な現校舎に対する学生諸君の不満を解消してなお余りあるものです。これまで他大学に対して大変遅れていた施設面を一気に改善、充実させるものとなり、来年3月の完成が待たれます。

▼附近見取図



▼配置図



## 特別寄稿

### 大学厳冬の時代を生き抜く

種智院大学学長 今井圓明

種智院大学新キャンパスは、北には遠く霊峰比叡の山を望み、東には紅葉に彩られた東山の山並みが迫る。西は悠久の流れ宇治川に囲まれ、南は京都市と宇治市にかけて広がる近辺最大の優良農地巨椋池干拓地の北部に位置する。

向島新キャンパスの建設現場に立って、心よい建設の鎚音を聞き乍ら、大学の過去を偲び、迫り来る大学厳冬の時代を迎え、前途多難の将来を考えると、その責任の重大さと未来への夢に一層身の引締まる思いがするのである。

#### 1. 新キャンパス建設について

##### (1)校地について

大学の存立に深く関わる法律、大学設置基準の一部改正が昭和59年8月13日（文部省令第46号）に公布された。

これは、昭和61年度からの18歳人口の急増急減に対処するため期限を限った定員増であった。通称これを「臨定省令」と呼んだ。

種智院大学は、平成3年に臨時定員増の許可をとり、法定入学定員40人は80人となって収容定員も160人が320人になった。これによって、授業料収入も安定して、健全な経営ができるようになった。

しかし、このありがたい「臨定」も18歳人口の急減する平成11年までの時限立法であった。

従って各大学も臨定廃止の時期が近づくにつれて一大問題となった。

種智院大学においても臨定が廃止され法定定員の昔に帰ると、収入の大半を学生納付金に頼っている私学であり、忽ち財政的にピンチに陥ってしまう。

文部省令に定められた最低限の教職員数を守っている当大学は大きなリストラもできず、さりとて教職員の給与も半減できず、臨定の増員分を恒常化するしかないと考えたのである。

しかし、これにも難関中の難関である校地問題が立ちはだかっているのである。

種智院大学の校地の現況は、自己所有の土地はほとんどなく、現在の校舎の敷地は東寺の借地である。

従って、移転するとなると大学設置基準により約7,800坪以上の広い土地が必要（但し、用地買収交渉を始めた後になってからの、平成9年度の基準改正で3,900坪以上に改められた）となった

のである。

いろいろ理事・評議員会で審議頂いた結果、移転やむなしとなった。

しかし、用地買収に要する膨大な財源については、なんとか長期借入れをおこし、総力を挙げて支弁するとしても、交通に便利で文教にふさわしく、しかも開発行為、宅地造成の容易な場所等の諸問題を解決できる土地が早期に入手できるかどうか、問題であった。

これも学園理事・評議員会の決定のもと、今をときめく野中広務官房長官、地元選出奥山茂彦代議士、農林水産省、近畿農政局、京都府、京都市、地元農協、巨椋池土地改良区、地権者等多くの関係者の御協力を頂いて諸問題が早期に解決し、伏見区向島の地に洛南高校・中学校のグラウンド用地も含めて、望み通り理想的な9,000坪の土地が買収できたのは、本当に学祖弘法大師の御加護の賜物と心から感謝している。

##### (2)校舎について

現在東寺境内にある校舎は、昭和47年森諦園学長時代に新築され、更に平成3年麻生文雄学長時代に増改築されたものである。

これらの建物は経営本山を始め、多くの関係寺院並びに、同窓会、当時の在学生等の浄財により建てられたもので、この建物を活用できないかと文部省にも指導を仰いだが、自己所有校地上に主たる校舎が必要とのことで、教室としては、利用困難となった。

従って3階部分の講堂を公開講座等の利用に当て、その他の部屋は密教資料研究所において活用し、1、2階は洛南高校・中学の教室として学園理事会で検討頂くことにしている。

我が大学は、弘法大師が創建された綜芸種智院に由来するものである。

御大師様は、宗祖であり学祖でもある。

弘法大師の立教開宗の本懐は、秘密曼荼羅の法門の弘通にあった。

従って新キャンパスの校舎は、大師の本懐を発現すべく努力し、一階部分は円形にして金剛界を表し、2階から4階までは、方形にして理智不二を表すことにした。

金界の図像は、月輪の中に蓮花があって智を面とし、胎藏の図像は、蓮花の上に月輪があって理を面としている。

大学は、勝義心向上の智門を面とするから、金剛界図像の例に随って円を外面とし、方を内部として理智不二の深義を表したものである。

又、建物の四角には、避難階段があるが、この部分は仏法の守護を念願とし仏法に帰依する人々

を守護する四天王を表し、学生及び教職員は四天王に護られて学園生活をすることを目的としたものである。

面積は、本館約6,000平方メートル、体育館2,000平方メートル、計約8,000平方メートルである。

この様にあえて校舎を密教の奥義と標幟表相して三摩耶曼荼羅としたのは、大学冬の時代に立ち向う大学の心意気を表そうとしたものである。

## 2. 経営の安定を求めて

### (1) 仏教学科の臨定恒常化について

本学は、仏教学部仏教学科の単科大学としてこれまでの歩みが形成されてきた。

そこには、真言宗門の後継僧侶養成を第一の眼目としてきた教育目的があった。

しかし本学の場合、その宗門の基礎となるのは、真言宗のなかでの古義系（高野山真言宗を除く）の各派を経営本山とするものであった。

その基盤となるのは、寺院数2,600余ヶ寺で平成5年までは、経営規模をそれで維持してきた。

その後、18歳人口の急増と共に、宗門子弟の大学入学難の影響を受け、本学はオール真言宗大学をめざし、真言宗各派の後継僧侶養成に取り組み、本学をその中核に位置付ける方針をたてた。

それに伴い、平成6年には新義真言宗（末寺数210ヶ寺）が、平成8年には真言宗豊山派（末寺数2,600ヶ寺）並びに、真言宗智山派（末寺数2,800ヶ寺）からも協力本山として経営協力金の交付を受け、それぞれの宗派から多数の学生が入学し、学業にいそしんでいる。

加えて、豊山派及び智山派からは、法式、声明及びそれぞれの派の歴史について専門の講師が派遣され、卒業後は教師資格が取得できるよう万全を期しているのである。

この様な現況から、法定（40名）に加えて臨定（40名）の恒常化を図り、仏教学科80名の定員実現を計画しているのである。

### (2) 仏教福祉学科の創設について

本学は現在仏教学コース、密教学コース、密教文化コース、そして仏教福祉学コースの4コースを設置してきた。

仏教福祉学コースは、昭和53年に設置し、20年間にも及ぶ実績がある。

近年受験生の動向として、仏教福祉学コースを希望する学生数が著しく増加を示している。

今、21世紀は、超高齢化社会であり、福祉の時代とも云われている。

従って高齢化社会或いは、福祉社会を迎えて福祉の人材養成は必須の課題である。

福祉については、国の方針により、さまざまな

施設が数多く設置されてきた。

然しながら、それに携わる職員は、福祉の実践において、特に福祉施設利用者の心を十分満足させる教育が出来るかどうか甚だ疑問である。

それを解決するため、日本でただ本学だけに設置される仏教福祉学科、いわゆる仏教の冠をつけた福祉学科の存在が高く評価されなければならないと思うのである。

ここで本学の建学の精神に基づき、弘法大師を始め多くの先徳が築かれた、福祉活動を学ばねばならないのである。

超高齢化社会の福祉を生き抜く人材が持つべきターミナルケアの思想は、仏教・密教が蓄積してきた、まさしく「抜苦与楽」の慈悲の道であり、死への恐れを抱く高齢者への心のケアができ、介護実践を可能にする人材の養成でなければならない。

この様な考えに立って、入学定員80名の仏教福祉学科を創設し、社会的要請に応じていき、併せて大学経営の安定化につとめたいと考えているのである。

### (3) 教授陣について

真言宗に限らず、国内外に優れた人材を広く求めること、他大学との交流をはかることなど課題は多い。

教育成果のより一層の向上にむけて、碩学を迎える客員教授制度を平成九年度から実施し、教相面では高野山大学から松長有慶元学長先生（9年度・10年度）、高木神元前学長先生（平成9年度）、平成10年から国際日本文化研究センターの頼富本宏教授（種智院大学前学部長）を迎えて、事相面では平成9年度から本山声明に潮弘憲講師をお願いしている。

明11年度は、前記に加えて新キャンパスの竣工を記念して一流伝授に河内延命寺の上田靈城先生（現在真言宗事相界第一人者）を客員教授に迎えて、三憲の一流伝授を3年にわたって開講し、授業の充実と人事の沈滞を避けて、活性化に努めることにしている。

### (4) 入試制度について

大学冬の時代は、少子化に伴う18歳人口の減少で入学者数も、個々の大学によっては、定員の充足が困難になり、厳しい経営状況を迎え、廃校もありうると云うことである。

昨年（平成10年）10月26日に出された大学審議会の「二十一世紀の大学像と今後の改革方策について」の答申にある参考資料、8. 大学・短期大学の全体規模の試算157頁（後記）によれば、18歳人口の急減により、志願者数、入学者数は漸次

減少し、進学率が欧米並に上昇しても、平成21年には、志願者に対する収容力は100%となる。

いわゆる進学希望者全員が大学に入れる時代になるのである。

(単位：千人)

	8年度実績	11年度	16年度	21年度
18歳人口	1,732	1,545	1,411	1,201
志願者数 (現役志願率)	1,096 (54.4%)	934 (54.9%)	876 (58.9%)	707 (62.9%)
入学定員	693	706	657	679
入学者数	800	748	711	707
志願者に対する収容力	73.0%	80.1%	81.1%	100.0%
進学率 (高卒進学率)	46.0% (45.4%)	48.4% (47.2%)	50.4% (55.1%)	58.8%

従って大衆化を超えた大学全入時代に対し、大学自体が改革を迫られているのである。

真に大学の死活にかかわる問題は、ここにあるのである。

この困難を生き抜くには、全教職員が一丸となってすべてのエネルギーを出し切って学生確保と教育水準の向上に取り組まねばならない。

大学の存続は一つにかかって学生確保にあり、正に学生確保の戦国時代である。

本学においては、平成10年度は前年に比べ広報費は倍増し、高校訪問は全教員を動員し、自分の大学は自分の努力で、自らの手で経営するという気概を持って、学生確保に尽力することを力説した。

まだ十分とは云えないが学長の私も先生方と行動を共にし、6月頃から頑張ったものである。

各高校を廻り、その実状を知り将来の対応に参考となる事が多々あった。

いたずらに広報費を使っても効果は不明であって、年度途中で十分な成果は今のところ把握できてないが、しっかりと点検する必要がある。

ただ、昨年11月に行われた推薦入試については、先生方の努力により訪問校からの反応は確かに力強いものと感じた。

入試制度としては①宗門後継者推薦入試②指定校推薦入試③編入入試・社会人入試④試験場の増設等考えられるすべての手を打って万全を期して行きたいと考えている。

### 3、結び

以上「1、新キャンパス建設について」「2、経営の安定化を求めて」を記し、大学厳冬の時代を生き抜く施策を縷々述べたが、更に学力の向上の認められない学生に対する指導内容及び学園加行、宗教行事、並びに新設仏教福祉学科の学生の

質の向上を図る考え方を記して結びとしたい。

#### (1)授業がわからない学生のために

昨年の10月14日(火)朝日新聞の朝刊1頁に文部省調査の結果、授業のよく解らない生徒の比率が小学生3割、中学生5割、高校生7割と「七五三」説が公式に裏付けられたことが伝えられた。

そこで高校生では「よくわかる」と答えたのは、40名クラスで1人か2人で「だいたいわかる」との合計では37%で15名、あと25名が解らないと云うことである。

このような学生を入学させ、教育して一人前の社会人に仕立て上げようとすれば大変な努力が必要である。

知的好奇心のないアルバイトのみに力を入れる学生、向学心のない学生を如何に教育するかは、本当に難しい問題である。

本学では、担任制度をとって生活指導をし、出席の悪い学生は呼び出し、注意をし、更にそれが続くようなら保護者を呼んで注意するなど、担任の先生と学生部長先生は大変である。

入学して1年たって所定の単位が取れず、改善の見込みのない者は「退学勧告」を出し、毎年調整し、2回生の終わりで十分な単位取得ができない学生は3回生への進級は出来ず、毎年本当に熱意のない学生数名には退学を勧告し、保護者も来てびっくりだが退学することを承諾してもらい、連れて帰ってもらうことにしている。

そしてその欠員は、質の高い編入生を入れて少しでも大学レジャー化の防止に努めているのである。

「七五三」の学生の授業の理解度を先生に話をし、先生方に対しては、難しい学問も解りやすく教える努力をしてもらう事を勧めている。

私の授業の中で、学生には「自分の身の上や、社会状況や時代の行く末がどうであろうと、たった一回しかない人生を遅く生き、天賦の個性を十二分に開花してみせるぞという自覚を持つように。」また、教授会でも「学生に、そのような自覚を与えてやって欲しい」と訴え続けているのである。

#### (2)学園加行による人間改革について

平成7年度から嵯峨大覚寺を道場としてお借りし、学園加行を実施している。

100日間2食の精進料理と朝午前2時から夜午後9時迄の厳しい加行の結果、人が変わったかと思う程成長し、立派な僧侶となって新しい寺を造ったり、素晴らしい社会人となって活躍している学生も多いのである。

#### (3)宗教行事を通じての事相教育について

又小さい大学であるのでアットホームな雰囲気の中で、降誕会や常楽会を実施しているが、古義、豊山、智山の学生が中心となって順次毎年先輩から後輩に指導し、古義、豊山、智山の先生方にも特別に夜遅くまで、連日指導頂き、参加職衆学生が60~70人、加えて献華等の助法学生も30~40人が参加して、各派の学生は競争して切磋琢磨し、大きな成果を挙げている。

#### (4)新設仏教福祉学科の充実を求めて

本年4月から創設される仏教福祉学科では、社会福祉士試験の合格率を高める為、特別のカリキュラムを準備し希望する学生に対し、春休み、夏休みの長期休業期間を活用し特訓をしていきたいと考えている。

#### (5)一筋の光明を求めて

この様に本学は教職員と学生が一体となって新キャンパスで、心に新しい大学像を描いて進めば、大学厳冬の時代でも、一筋の未来への光明が必ず見出される事を堅く信じて止まないものである。

## 会 員 異 動

### 吉田仁和寺門跡送別会

種智院大学同窓会顧問で真言宗京都学園理事長、御室派管長・総本山仁和寺門跡の吉田裕信猊下(昭和24)は平成10年6月22日をもって任期満了を迎えたため、6月18日京都ホテルに於いて盛大に送別会を開催した。当日は正午より「暁雲の間」に於いて各山主、重役、末寺、華道他関係者218名が出席。主催者を代表して佐藤執行長は吉田門跡の在任中の功績の数々を述べ挨拶。次に各山会を代表して真言宗長者である麻生醍醐寺座主は吉田門跡の人徳を称え、広島県人会副会長を務める吉田門跡の人柄やエピソードを紹介、最後に別れを惜しみ「京都の北山の一角に小庵を設けて頂いて生活を続けて頂いたら、皆喜ぶと思います。いつまでもお元気で頑張ってください」と挨拶。つづいて宗団や各界から祝辞や記念品が贈呈された。吉田門跡は「多くの方のご支援お力添えを頂き、無魔任期を全うすることが出来、そのご厚情には大きな深いものを感じております。五年間、田中、倉信、佐藤の三内局に支えられ、終わりには体調を崩し迷惑をかけたが無魔勤めさせて頂いた。心からお礼申し上げ、自坊に帰りましていろいろな面でご恩報謝させて頂きたい。門跡五年間、総長四年間、また戦後学生時代を併せると、十五年間の在京生活で、第二の故郷であり、思いもご縁も深い。出来るだけ京の都に足繁く寄せて頂こうと

思っております。本日は身に余る会を開催して頂き感謝申し上げます」と謝辞の後、今井種智院大学学長の発声で乾杯し、宴に移り、門跡は各テーブルを廻り、出席者と親睦を深め、午後2時終了した。なお出席の主な本学同窓会関係者は下記のとおり。片山宥雄(昭和19)大覚寺門跡、麻生文雄(前学長)醍醐寺座主、池田瑩輝(昭和28・同窓会長)中山寺元長老、谷口光明(昭和24)西大寺長老、川村俊朝(昭和23)泉浦寺長老、今井圓明(昭和24)種智院大学学長・中山寺元長老、池田光輝(昭和51)中山寺総務部長他。

### 吉田裕信仁和寺門跡退山式

平成10年6月22日、本学同窓会顧問で真言宗京都学園理事長の吉田裕信仁和寺門跡(昭和24)の退山式が総本山仁和寺で執行された。当日は午前10時より霊明殿で勤行の後、宸殿に於いて退山式を執行。式終了後吉田門跡は御殿玄関を出て、仁王門前で式出席の末寺住職、山内職員一同に見送られ、仁和寺を後にした。門跡は午後2時12分発の新幹線「500系のぞみ」に乗り、帰山されたが、新幹線ホームには麻生文雄醍醐寺座主(前学長)、片山宥雄大覚寺門跡(昭和19)、田中純應洛南高等学校校長(昭和24)や真言宗京都学園職員、仁和寺役員、御室流華道関係者等多数が見送りに駆けつけ、門跡との別れを惜しんだ。

### 藤井龍心名誉教授遷化



藤井龍心名誉教授

本学の名誉教授で、元智山派管長・智積院第65世化主、京都市上京区七本松通一条上ル一観音町428-1清和院住職の藤井龍心大僧正は、平成10年4月13日午後10時24分、世寿94歳を以って遷化された。通夜は4月17日午後6時より、本葬儀は翌18日午後1時より

近藤隆敬智積院化主導師のもと共に清和院に於いて営まれたが参香者多数で盛葬であった。

藤井名誉教授は、明治36年7月21日生、智山勸学院卒業、大谷大学で宗派研究生として唯識を研究、戦中から戦後にかけて京都専門学校教授、智山専修学院院長等を勤め、昭和27年より菩提院結衆、36~7年教学部長、44年集議席に列座、54年宗機顧問就任。本学にあっては、唯識論や一流伝授など事相・教相、宗乘・余乗と長年教鞭を取られ薫陶に浴する学生が多かった。また智山講伝所所長等を勤められ、62年智山派管長に就任、平成元年には真言宗長者として、象徴天皇制下初の新天皇

である今上天皇の御衣を奉じて後七日御修法大阿を勤め、開白前日の1月7日には当日早朝崩御された昭和天皇追悼法要の導師も務めた。平成3年管長に重任され、5年二期目の任期半ばにして惜しまれつつ勇退した。宗学、護持、総本山、護法、社会各功労賞を受賞、また昭和59年には多年にわたる幼児教育への功労により勲六等旭日単光章を受章している。昭和44年より弘教。事教二相に互る深い学徳と温和な人格で人望厚く、その遷化が惜しまれている。

### 藤井龍心大僧正追悼法要

平成10年4月13日世寿96歳で遷化された本学名誉教授で智山派元管長・総本山智積院化主第65世藤井龍心大僧正の追悼法要が、5月20日午前11時より京都市東山区の総本山智積院で執行された。当日は真言各山・隣山山主重役、高井前智山派管長はじめ大本山・別格本山山主、集議・菩提結、内局、教区長、責役など宗内重鎮、智山会ほか関係者二百数十名が参列。同窓会からは、今井圓明学長（昭和24）、北尾隆心講師（昭和56）他の関係者が参列した。

### 村主恵快大僧正遷化



村主恵快大僧正

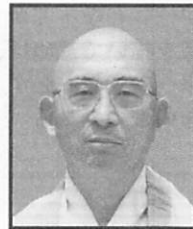
本学元講師で、兵庫県宝塚市中山寺2丁目11-1の真言宗中山寺派元管長・大本山中山寺元長老・中山寺総持院名誉住職村主恵快大僧正は去る8月11日午前8時55分、世寿77歳をもって遷化。哀悼。即ち12日通夜を、13日午後2時より密葬儀を営み、本葬儀は8

月31日総持院に於いて中山寺元長老・中山寺成就院名誉住職池田瑩輝大僧正導師のもと総持院葬をもって営まれ、各山関係等宗内外から多数が参香し盛葬であった。

故大和尚は大正11年7月30日生、昭和9年石堂恵猛大僧正に従い得度。高野山大学予科を出て、21年九州帝国大学文学部哲学科卒、京都帝国大学大学院でインド哲学を専攻。16年高法寺住職、33年総持院住職就任、中山寺法務部長を勤め59年中山寺派管長・中山寺長老に就任。62年御修法大阿を勤め真言宗長者。宗外では49年に宝塚市仏教会会長、55年兵庫県仏教会常任理事等数多の要職を歴任。また昭和22年に大阪府立豊中中学校、29年大阪大学文学部に勤め、30年種智院大学・仁和密教学院講師、41年追手門学院大学（文学部）教授、平成6年同学名誉教授に就任。他に日本密教学会、

密教図像学会監査、真言宗京都学園後援会事務局長、日本印度学仏教学科会、日本仏教学会、日本宗教学会学士会会員として幅広く学会で活躍、多くの学術論文を発表する一方、インド哲学の研究及び数多くのインド・中央アジア・西アジアへの資料収集を行ない、多大の文献をもたらし、特にストゥーパ（塔）のシンボリズムと密教の関連を明らかにし、多くの研究者に道を開いた。そしてその哲学的立場を真言布教の形で広く実践する等、後進育成に尽力し平成6年第32回密教学芸賞を受賞。宗団発展、寺門興隆に尽力しその遷化が惜しまれている。

### 吉田裕信真言宗京都学園理事長・前仁和寺門跡遷化



吉田裕信大僧正

本学同窓会顧問で真言宗京都学園理事長、真言宗御室派前管長・総本山仁和寺前門跡で広島県佐伯郡宮島町210大本山大聖院座主吉田裕信大僧正は、平成10年12月3日午前8時40分、肺癌のため広島市内の病院で世寿68歳をもって遷化された。

通夜は3日午後7時より、密葬は4日午後1時より松村祐澄元仁和寺門跡の導師により営まれ、参香者多数で盛儀であった。

故大僧正は、昭和4年12月18日大聖院75世吉田恵光座主の長男として明星院で誕生。昭和14年4月12日吉田恵光和上の門に入り剃髪、同14年6月10日度牒了。同25年9月17日仁和寺道場において四度加行成満。昭和27年11月23日大覚寺道場において草繫全宜和上より受戒、同年11月24日大覚寺道場において草繫全宜大阿闍梨に従い伝法灌頂入壇了る。昭和40年6月16日、花栴智勝仁和寺門跡より法流稟承。昭和53年7月1日弘教に任ぜられ、同5年6月23日大僧正に補せられる。

昭和24年3月京都専門学校を卒業後龍谷大学に進み27年卒業。昭和31年広島県佐伯郡宮島町社会教育委員に就任、同38年大本山大聖院住職に晋山。同46年宮島町教育委員長、同53年宮島町選挙管理委員長。この間広島宗務支所代議員に始まり、御室派青年教師会初代会長、宇多法皇千五十年御忌事務局理事、広島宗務支所長などを経て、昭和57年5月御室派宗会議員、同61年5月から平成2年5月まで御室派宗務総長・総本山仁和寺執行長ならびに真言宗京都学園理事長・評議員。平成5年5月より10年6月まで御室派管長・総本山仁和寺第46世門跡、御室流華道家元。同5年12月より真言

宗京都学園理事長。昭和64年と平成6年後七日御修法定額僧。平成8年には後七日御修法大阿、法務法印真言宗長者、同9年野沢真言宗長者遷化の後、前長者として法務を代行された。管長・門跡職退任後、平成10年6月23日仁和寺最高顧問に就任され、今後の活躍が期待されていた。

また、地元にあつてはさらに広島刑務所教誨師、安芸地区弘法大師奉賛会理事長を歴任。

自坊にあつては、平成3年9月台風により被害を受け、復興のため7年の歳月と総額10億円余りをかけて「平成の大事業」を推進。今年10月9日より3日間「平成大事業奉告慶讃大法要」を成満したところだった。温篤な人柄と幅広い学識により、多くの人に慕われており、その早すぎる遷化が悼まれている。

なお、本葬は平成11年1月20日午前11時より大聖院でおこなわれる予定。

### 田中純應洛南高等学校・ 同附属中学校校長遷化



田中純應僧正

本学同窓会顧問で、洛南高等学校校長・同附属中学校長、真言宗京都学園理事・評議員、御室派元宗務総長・総本山仁和寺元執行長の京都府北桑田郡京北町上弓削上ノ段36大聖院住職田中純應僧正は、平成10年12月4日午前9時16分、京都市内の病院で肺炎のため世寿71歳をもって遷化された。

通夜は平成10年12月5日午後6時より、密葬は12月6日正午から桑田善照大僧正の導師により執行された。

故和尚は、昭和2年11月3日生まれ、神本善應和尚の室に入り得度。昭和20年8月25日福仙寺道場において四度加行成満、同年8月26日福仙寺道場において神本善應和尚より受戒。昭和28年5月5日仁和寺道場において岡本慈航大阿闍梨の西院流の伝授を受け、36年6月21日仁和寺道場において花栴智勝大阿闍梨に従い西院流にて伝法灌頂の壇に入る。昭和54年7月10日弘教に任ぜられ、平成元年2月7日権大僧正補任、平成10年12月4日大僧正を追贈せらる。

昭和24年3月京都専門学校を卒業後、4月に弓削小学校教諭として教壇に立って以来、小学生の児童教育に心血をそそぎ各小学校を歴任しながら、昭和38年6月大聖院住職に晋山。昭和47年京北町立細野小学校教頭となり、弓削小学校教頭を経て昭和56年京北町立黒田小学校校長、同59年周山小

学校校長。昭和59年には京都府教育委員会教育局総括指導主事、同61年には京北町教育長を務められた。

宗内にあつては、宗務支所長・宗会議員などを歴任し、平成2年5月より同6年5月まで御室派宗務総長・総本山仁和寺執行長として松村・吉田両門跡を支えた。また、平成2年5月から真言宗京都学園理事・評議員として宗門子弟の教育にたずさわり、平成4年4月からは洛南高等学校校長・同附属中学校校長として教育に専心せられ、優秀な人材を輩出していた。故和尚の温和で篤実な人柄は高校の教職員・生徒たちからも慕われ、その遷化の早すぎたことが惜しまれている。

本葬は平成10年12月24日午後1時より自坊大聖院で営まれた。

### 仁和寺新内局発足

御室派では去る5月21日付で仁和寺執行長・御室派総長佐藤令宜師による新内局が発足した。任期は4年。本学関係者および略歴は下記のとおり。  
○執行・財務部長沖田定信師 徳島県美馬郡貞光町端山字木屋341東福寺住職、昭和12年7月31日生、60歳。35年種智院大学卒。37年東福寺住職就任、39年宝珠寺特任住職、55年同寺兼務住職。徳島自治布教副団長、徳島支所代議員、宗会議員等を歴任、宗外では貞光町社会教育委員、同町町史編纂主任、保護司等をつとめ、現在徳島県仏教会副会長、同県更正保護協会評議員、同県文化財巡視員、美馬地区保護司会会長、特養老人ホーム「太田荘」監事、東福寺美術館館長兼学芸員。著書に『美馬郡医事史』『美馬郡の文化財』『阿波のお堂』等がある。示教、中僧正。

### 中山寺新内局発足

宝塚市中山寺2丁目11-1の大本山中山寺（村主康瑞長老）では村主管長の就任に伴ない、当局の組局がおこなわれた。本学関係者は下記のとおり。

○総務部長・池田光輝師 中山寺成就院住職、昭和27年3月3日生、46歳。昭和51年種智院大学仏教学部卒、52年仁和密教学院修了。平成3年成就院住職、中山寺執行・法務部長、6年同・財務部長を歴任。権中僧正。

○財務部長・今井浄圓師 中山寺宝蔵院住職、昭和32年5月17日生、41才。52年仁和寺道場で加行成満、伝法灌頂入壇、56年龍谷大学文学部仏教学科卒、59年龍谷大学大学院文学部文学研究科修士課程修了、平成元年同博士課程を単位修得後、依

願退学。平成7年種智院大学非常勤講師。10年4月同専任講師。10年3月1日宝蔵院住職、3月1日から31日まで総務部長。現在、宝塚市仏教会事務局長。少僧正。

### 平成10年度社会福祉士国家試験合格

平成10年度社会福祉士の国家試験で、本学卒業生の村田母映子さん（平成9卒）が難関を突破し見事に合格されました。ここに同窓会の皆様にご報告致しますとともに、心よりお慶びを申し上げます。

なお、村田さんのお喜びの心境を綴っていただきましたので以下に掲載。

#### 社会福祉士国家試験に合格して

平成9年度卒業生 村田母映子

今年3月、私は社会福祉士の国家試験に合格しました。私は昨年（1997年1月）も受験しており、2度目の挑戦でした。昨年1度目に受験したときは、卒業論文の締め切りや大学の定期試験の時期と重なり、私自身の計画の甘さもあって、十分な勉強をすることができませんでした。卒業論文を書く合間を見て、少しずつ勉強はしていましたが、受験勉強にあてる時間が少なかったり、系統立てて勉強していなかったりしたために不合格となりました。

私は卒業後、研究生として大学に残っていましたので、2度目はその有利な条件をいかして取り組みました。この年は約2カ月前から受験勉強を始めました。本来ならもっと早くから始めるべきなのでしょうが、私自身大学院進学も目指していましたので、そちらの準備もしなければならず、出足が遅くなってしまいました（おかげさまで佛教学大学院に無事合格でき、今年4月から通っています）。しかし受験1度目の経験をいかして、2カ月の間はほぼ毎日勉強をするよう心がけていました。

私の受験勉強の中心は、過去の国家試験の問題を解いていくというものでした。受験科目は十数科目ありますが、その中で自分の得意な科目を見つけだし、その科目を中心に進めていきました。苦手な分野を克服することは大切なことですが、それはそれで追求しなければならないことだと思いますが、私の場合、苦手な分野を克服するというよりは得意な分野を伸ばすということで受験に備えていきました。

受験したときのことを思い返してみると、やはり試験当日は緊張しましたし、限られた時間でた

くさんの試験問題を解かなければならず、体力も必要でした。こういった状況のもとで自分の力を出しきるのには簡単なことではないと思います。こういうとき自分の力になるのは「これだけやってきたんだ」という自信だと思いますし、そのためにも自分にあった勉強方法を見つけていくことが大事ではないかと改めて感じています。しかしながら、社会福祉士は資格を取得した後が重要です。私自身資格を持っているということに甘んじることなく、これからも様々なことを学び、自分を高めていかなければならないと思っています。

## 学内だより

### 仏教福祉学科増設認可

母校種智院大学においては、従来仏教学部仏教学科のみの学科編成であったが、このほど平成10年12月22日（火）付けをもって仏教福祉学科（定員80名）の増設が認可された。これにより、わが国において初の仏教福祉を専門的に研究する学科が誕生し、本学のより一層の発展が期待されることになった。この仏教福祉学科の誕生により、現在の80名に加えて1学年160名の定員となる。

種智院大学では、昭和53年度に仏教福祉学コースを設置し、福祉の最前線に有能な多くの卒業生を送り出してきた実績がある。徹底した臨床主義に基づき、実践的な講義と「社会福祉援助技術現場実習」などの現場実習を通じて社会福祉機関における専門職としての必要な知識、技能を修得することができ、また施設や事務所で主体的に活動し、社会福祉の現実を体験することで真の福祉の意義を把握してもらえるようにしていた。このほど誕生した仏教福祉学科では、この仏教福祉学コースの実績を継承し、さらに臨床主義に徹した教育内容の展開を予定している。そして、これまでは2年次の実習以外は選択履修であった実習の科目を必修科目に改正し、仏教福祉学科卒業生全員に「社会福祉士」の国家試験受験資格が与えられるようになる。

仏教福祉学科の核になる考え方は、仏教の根本思想である「利他行」であり、「慈悲と智慧」である。知識や技術はもちろんのこと、従来の社会福祉ではなおざりにされてきた“心”についても、4月に開校する向島キャンパスの行き届いた最新の設備と環境の中で習得してもらうことを目指す。

また、仏教福祉学科も、従来の仏教学科と同様、宗門後継者のための入学の枠を設けており、次代を担う若き仏教者に対しても広く門戸を開放する。



平成11年度 種智院大学入学試験要項

1 学部・学科・募集人員

仏教学部	仏教学科 定員80名	●一般入試試験(A, B, C) 37名 ●大学入試センター試験利用 10名 ●社会人入試 3名
	仏教福祉学科 定員80名	●推薦入学試験 { 指定校 24名 一般公募 } ●一般入学試験(A, B, C) 51名 ●社会人入試 5名

2 出願資格

★推薦入学試験 (仏教学科は終了しました。仏教福祉学科のみ)

高等学校を平成11年3月卒業見込みの者か、平成10年3月卒業で、出身学校長の推薦が得られる者。併願可

★一般入学試験 (A・B・C) (仏教学科、仏教福祉学科共通)

- 高等学校卒業者及び平成11年3月卒業見込みの者。
  - 通常の課程による12年以上の学校教育を修了した者及び修了見込みの者。(通常の課程以外によりこれに相当する学校を修了した者を含む)
  - 文部大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び文部大臣が指定した者。
  - その他において、相当の年齢に達し高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者。
  - 文部大臣の行う大学入学資格試験に合格した者。
- 一般入試Cにおいて仏教学科、仏教福祉学科共に宗門後継者の枠を設けています。詳細は入試係まで問い合わせして下さい。

注 真言宗18本山

総本山仁和寺、大本山寶山寺、総本山朝護孫子寺、大本山勸修寺、大本山大覚寺、総本山醍醐寺、大本山中山寺、総本山金剛峯寺、総本山西大寺、総本山教王護国寺、大本山清澄寺、総本山泉涌寺、総本山善通寺、大本山須磨寺、大本山随心院、新義真言宗、真言宗智山派、真言宗叡山派

★大学入試センター試験利用 (A・B) (仏教学科のみ)

○平成11年度大学入試センター試験で本学が指定する科目を受験した者。

★社会人入試

○高等学校 (大学入学資格検定試験合格者も含む) 卒業後、社会経験を有する入学時満23才以上の者。

3 入試日程

(出願期間と手続締切は消印有効)

種別	出願期間	試験日	発表日	手続締切	
仏教福祉学科	推薦入試	1月11日(明)~1月21日(水)	1月25日(明)	1月29日(金)	2月8日(明)
	一般入試A	1月14日(水)~1月29日(金)	2月2日(火)	2月5日(金)	2月16日(水)
	一般入試B	2月4日(水)~2月18日(水)	2月21日(明)	2月24日(水)	3月5日(金)
	一般入試C	3月1日(明)~3月15日(水)	3月17日(金)	3月19日(日)	3月29日(明)
	社会人入試	3月1日(明)~3月15日(水)	3月17日(金)	3月19日(日)	3月29日(明)
	センター利用A	1月22日(金)~2月5日(日)	筆記試験はありません		2月12日(水)
	センター利用B	2月26日(金)~3月13日(日)	筆記試験はありません		3月19日(日)

4 入試科目

種別	科目	配点	
仏教福祉学科	推薦入試	小論文	100
	一般入試A・B	国語Ⅰ・Ⅱ (現代文のみ)	150
		外国語 (英語Ⅰ・Ⅱ)	100
	一般入試C	国語Ⅰ・Ⅱ (現代文のみ)	150
		面接*	100
	社会人入試	小論文	100
		面接	100
センター利用A・B	必須 国語 (国Ⅰか国Ⅰ・Ⅱ) 選択 外国語 (英)・地理・公民・数学 (数Ⅰ、数Ⅰ・A、数Ⅱ、数Ⅱ・B)から1科目	100	

※一般入試C宗門後継者枠のみ面接実施

5 試験時間

(1) 推薦入試 (本学)		(2) 一般A (本学)	
10:00~10:10	10:10~11:10	10:00~10:10	10:10~11:30
11:50~12:50			
推薦	説明・ 語注意	小論文 (60分)	一般 説明・ 語注意
			国語 (80分)
			外国語 (60分)
(3) 一般B (本学・東京・大阪)		(4) 一般C (本学)	
12:50~13:00	13:00~14:20	14:40~15:40	10:00~10:10
10:10~11:30	12:30~		
一般 B	説明・ 語注意	国語 (80分)	外国語 (60分)
			面接
(5) 社会人入試 (本学)		一般は国語のみ 面接は宗門後継のみ	
10:00~10:10	10:10~11:10	12:10~	
社会 人	説明・ 語注意	小論文 (60分)	面接

6 試験会場

本学 (推薦入試、一般入試A・B・C、社会人入試) 大阪会場 (一般入試B) } (試験会場案内図参照) 東京会場 (一般入試B) }
---

人事異動

平成10年度になり、今年も多く的人事異動がありました。多年にわたり本学のためにご尽力いただいた先生方には大変名残惜しいことですが、心からお礼を申し上げますとともに、新しい職場でのご活躍をお祈りいたします。また新しく本学にお越しいただいた先生方、職員の皆様のご紹介をいたします。

退任 頼富本宏 (教授、学部長) 国際日本文化研究センター教授へ

桂 泰三 (教授)

阪 武彦 (特任教授) 鳴門教育大学教授へ  
牧野民枝 (図書館) 以上 3月31日付

新任 宮崎隆太郎 (教授)

今井浄圓 (専任講師)

木村 敦 (専任講師)

平尾 桂 (特任講師)

佐伯俊源 (特任講師)

上田智香 (教務係)

森 干晴 (法人事務局)

小林いづみ (法人事務局)

盛重由佳理 (図書館)

昇任 野口圭也 (助教授) 以上 4月1日付

また、平成10年度の役職は以下の通り。

学長 今井圓明、学部長 北村太道、学生部長 宮崎隆太郎、図書館長 中村幸子、宗教部長 山崎泰廣、入試部長 吉田 元、教務部長 野口圭也、仏教学コース主任 沖 和史、密教学コース主任 北村太道、密教文化コース主任 中村幸子、仏教福祉学コース主任 宮崎隆太郎、基礎教育課程主任 吉田 元、事務長 下山 博（敬称略）

## 新任挨拶

### 仏教福祉学コース



宮崎隆太郎 先生

教授 宮崎隆太郎先生  
私は、京都・三条千本の生まれです。子どもの頃から、「壬生狂言」のガンデンデンと、東寺の「弘法さん」になじんで育ちました。また、円山公園や平安神宮のしだれ桜のあとは、きまって、御室・仁和寺の桜見、というのが町

内会の年中行事でした。大覚寺の嵯峨菊は、青春時代のどこかに彩りをそえてくれていますし、その思い出は、泉涌寺の帰り道で食べた「赤飯まんじゅう」にもつながっています。

いま、真言宗の諸本山を母体とした種智院大学に勤めさせもらうことになり、里帰りしてきた気分です。

水が合う、ということばがあります。種智院大学はまさにそれです。だから、うれしがって、毎日、せっせと通っているのです。授業がなくても、特別に用事がなくても、足繁く通っています。その一つの要因として、学生さんたちがとても素朴・純朴で、親しみを覚える人が多い、ということがあります。

### 仏教福祉学コース



木村 教 先生

専任講師 木村 教先生  
初めまして。今年4月に仏教福祉学コースに講師として就任いたしました木村教と申します。3月まで、同志社大学大学院博士後期課程に在籍いたしておりました。専任教員として仕事をさせていただくのは本学が全くのはじめて

であります。本当に駆け出しでございまして、不慣れなことも多く、諸先生・先輩方のお世話になることが多いと思いますが、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。専攻は社会保

障論です。講義の方は、社会保障論と医療社会事業を担当しております。2回生の基礎演習と4回生の社会福祉援助技術現場実習も担当しております。講義に、ゼミに、実習指導（私の方が学ぶことが多いのでありますが）にと、充実した日々を送っております。若い（と自分では思っております）力で頑張っていこうとの所存でございます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

### 仏教福祉学コース

特任講師 平尾 桂先生

種智院大学同窓生の皆様、初めまして。私は今年度から仏教福祉学コースの特任講師となった平尾 桂と申します。どうかよろしくお願い申し上げます。生まれは京都の桂で、名前の由来にもなっています。家族の関係で全国を転々としてきましたが、1995年度から、京都国際社会福祉センターというソーシャルワーカーの養成・研修機関に勤めるようになり、生まれ故郷に戻ってきました。

種智院とはその時以来のご縁で、非常勤として援助技術論を担当させて頂いてきました。種智院は社会福祉を学ぶのに非常に適した学校であると感じています。規模も小さく、学生同士、あるいは教員との体面関係が保てますし、何よりも社会福祉を学ぶ上で必要な宗教的価値観や態度を育てる土壤があると感じられるからです。このような種智院の教育活動に参加させて頂く機会を十分に活かしていきたいと思っています。どうかよろしくお願い申し上げます。

### 基礎教育課程



佐伯俊源 先生

特任講師 佐伯俊源先生

平成10年4月に講師として着任しました佐伯と申します。今年度は「人間と宗教」「京都の文化」など基礎教育関係の科目を担当しておりますが、平成11年度からの仏教福祉学科の開設に伴い、今後は主に仏教福祉関係の科目を担当することになると思います。学生時代からの専攻は歴史学（日本古代史）で、日本古代から中世への仏教史・寺院史を主な研究テーマとして勉強してまいりました。「福祉学」については全く初学の域を出ませんが、自分の問題関心を深めつつ、初学・初志の者として学生さんとともに取り組んでゆきたいと思います。また大学での教鞭の傍ら、奈良市内にある真言律宗総本山西大寺に所属し、真言僧侶として活動しております。仏教者としての立場を根本としつつ教育・研究に精進したいと

思います。

## 図書館より

図書館の基本業務（蔵書の検索・新着図書の情報提供等）の大半は、今年4月から導入されたコンピュータシステムによって、システム化しました。

今後は図書館システムとインターネットサーバーの融合により、学内情報化の基盤となる情報システムの構築を前提として、学内LANを介して他大学や各種研究所など学外へアクセスすることによる情報収集を図り、また本学にしながら全国の図書・文献の最新情報を検索できる状況を構築することを進めています。映像関係では、映像メディア用のサーバーを設置し、情報処理室のコンピュータからだけでなく、視聴覚設備を設置した各教室や各研究室から図書館のデータの利用を可能にする。これによって教員の研究・学生の学習および就職に関わる情報をすべてのコンピュータからインターネットなどの通信によって得られることが可能になります。

また将来的には、密教関係の貴重書や密教美術を図書館のサーバーに映像データ・文字データとして取り込み、情報処理教室・視聴覚設備をもつ教室での講義や学外から、本学所蔵の密教関係資料にアクセスすることを可能にすることによって、本学の密教研究を学外へ発信地と位置付ける。以上から今後の図書館は学内の総合的情報の基幹として、また、同窓生の方々への学術情報の窓口として広く利用していただくことを望んでおります。

### 吉田裕信真言宗京都学園理事長並びに 田中純應洛南高等学校・同附属中学校校長 の学園葬

平成10年12月3日遷化された真言宗京都学園理事長吉田裕信様下（昭和24）と、同12月4日遷化された真言宗京都学園理事で、洛南高等学校・同附属中学校校長田中純應僧正（昭和24）

両師の、真言宗京都学園による学園葬が、来る平成11年2月13日（土）午後1時より洛南高等学校体育館において執行される予定。

詳細については、真言宗京都学園法人本部まで。



### 【お慶び】

●沖 貴司 様（平成8卒）

由紀子様（旧姓細野 平成8卒）

平成10年6月13日ご結婚

●若泉 博絵 様（平成9卒）

平成10年5月ご結婚

●谷本 玉恵 様（旧姓養学 平成2卒）

平成10年9月15日ご結婚

●富所 泰之（平成10卒）

平成10年12月4日ご結婚

### 【訃報】

○多田 俊諦 様（京都専門学校 昭和19卒）

平成10年2月20日ご遷化

兵庫県津名郡 宝蔵寺住職

○藤井 龍心 様（本学名譽教授）

平成10年4月13日ご遷化

元智山派管長・智積院第65世化主

京都市内 清和院住職（詳細別掲）

○二本柳賢司（非常勤講師）

平成10年4月28日ご逝去 享年55歳。

○幡山 寛哉 様（京都専門学校 昭和19卒）

平成10年6月1日ご遷化

岡山県赤磐郡赤坂町 普門院名譽住職

○澤 実英 様（京都専門学校 昭和22卒）

平成10年6月24日ご遷化

滋賀県彦根市 長光寺住職

○村主 恵快 様（元本学非常勤講師）

平成10年8月11日ご遷化

元真言宗長者・中山寺派元管長・中山寺元長老

兵庫県宝塚市 中山寺総持院名譽住職（詳細別掲）

○土井 格明 様（真言宗京都大学 学籍移動

大正6卒）

平成10年8月27日ご遷化

兵庫県三木市 月輪寺名譽住職

○開田 清治 様（種智院大学 昭和28卒）

平成10年10月ご逝去

○吉田 裕信 様（京都専門学校 昭和24卒）

平成10年12月3日ご遷化

元真言宗長者・御室派前管長・仁和寺前門跡

広島県佐伯郡宮島町 大本山大聖院住職（詳細別掲）

○田中 純應 様（京都専門学校 昭和24卒）

平成10年12月4日ご遷化

御室派元宗務総長・仁和寺元執行長

京都府北桑田郡京北町 大聖院住職（詳細別掲）

○捨田利義猛 様（京都専門学校 昭和22卒）

平成10年12月15日ご遷化

京都市水薬師寺住職

※平成10年12月現在までの把握分を掲載。

会員の皆様で慶弔や身近な出来事、あるいは

姓名の変更などございましたら、何なりと各支部幹事または同窓会事務局までお知らせ下さい。

＜連絡先＞

京都市南区壬生通八条下ル東寺町545  
〒601-8478 TEL075-681-6513  
FAX075-681-5651  
種智院大学同窓会事務局宛

同窓会臨時幹事会報告

師走の声が聞かれはじめた、平成10年12月2日(水)11時30分より京都駅前ルネッサンスビル3階中華料理店「福幸」において種智院大学同窓会臨時幹事会が招集された。

この幹事会は、池田登輝会長の発案になるものであった。

児玉義隆同窓会事務局長の司会により開会、池田会長より、母校種智院大学のことについて何かと取り沙汰されているが、忌憚のない意見を出していただきたいと思うと挨拶があった。

続いて座長選出に移り、事務局一任の声を受けて、足立有教師(昭和24)を座長に選出。

冒頭座長より、本日の会議は議題の提示なく招集されてどういうことなのか、会長から説明を求めると要請。

これを受けて池田会長より、臨時幹事会の趣旨説明がおこなわれた。

種智院大学が伏見区向島に移転するにあたって、新しいキャンパスには、まだ本尊になる仏像の計画が何もなされていないとのことである。そこで様々な意見が会長の耳に入っており、中には建設的なものから否定的なものまである。そこで考えた結果、幹事に一堂に会してもらい、皆で協議した方が良くだろうと思ったので、集まってもらった。

自分の意見としては、現本尊は御大師様だが、今度は大日如来が良いのではないかと。依頼するのは種智院大学卒業生の長谷法寿師(昭和55)が良いと思う。摩耶山に仏像を納め、また中山寺や日本全国の仏像を彫っており、『大法輪』にも紹介されたことがある。見積額は、木像で2尺で6,951,000円、2尺5寸(等身大)で15,549,000円、3尺で23,453,000円で、木曾檜の寄木造りの木地仕上げ一部彩色(頭髮および光背の一部)。鑄造なら8,160,000円で木彫の半分である。いずれにしても製作には半年以上を要するので、決めるなら早くしなければならぬ。

また、最初は有志だけでも考えていたが、広く呼びかけて費用を募る方が良くのではないかとという意見もあり、これは皆で十分審議してもらった方が良くと思い集まってもらったと、提案理由説

明がなされた。

この後、休憩をはさんで協議に入り、本尊をまつ場所について、講堂兼体育館ということに対して、異論が出された。仏像を安置するのに体育館ではおかしいという意見に、真言宗京都学園監事 市橋真明師と真言宗京都学園法人代表本部 嶋総務部長より、文部省に対しての申請は体育館だが、実際は講堂のウエイトが大きい建物であると説明があり、一同、納得した。

ここで昼食をはさみながら協議を進め、大学から要請されるよりも先に同窓会で寄贈した方が良くという意見が出され、また同窓会はあまり大学の経営には口をはさまない方が良くとする提案もあり、いずれにしても大学に本尊は必要だろう。ただ体育館と講堂とを別に建ててもらいたいのが、それは大学も資金的に困難だろうから、同窓会としてはその建物を講堂と認識して話を進めることになった。

以上を踏まえて、大学に言われる前に、同窓会の方から本尊を寄贈する。製作は、長谷法寿師に後々まで拜んでもらえるような立派な仏像作成をお願いする。仏像は2尺5寸の等身大の木曾檜寄木造り、15,549,000円の大日如来とする。資金面では、同窓会員皆で寄って努力する。なお、荘厳具なども必要と思われるので、それらも合わせて今後検討して行く。

そのためには、特別委員会を組織する。委員委嘱するかたがたは、当日の欠席者も含めて以下のとおり。

会長：池田登輝 副会長：足立有教、市橋真明、高松龍暉、東田教範、森見章 監査人：川崎龍性、加門得勇 各支部の幹事：生駒研性、石坪昭真、江坂宗純、大林教善、沖田定信、小笹憲雅、佐伯龍幸、佐野剛空、嶋裕海、神野龍幸、菅智潤、福嶋尊光、法本弘文、峯孝雅、森光栄の23師。

委員会の名称や目標額など詳細については、本年1月22日(金)午前11時より午後3時まで上記各師に大学に集まってもらい、決定していただくことになった。

以上のように決定し、事務局が決定事項を復唱して承認を得た。

以上で協議を終了した。池田会長より、独断で皆を招集したが、出た意見を聞いて、同窓会が大学に対して協力するような結論が出て大変うれしいと、ご挨拶があり、児玉事務局長の閉会の辞をもって終了した。

※なお、この件について何かご意見がございましたら同窓会事務局までお知らせいただければ幸甚に存じます。来る1月22日(金)の特別委員会に反映させたく思いますのでよろしくお願い申し上げます。